

様式

自己評価委員会報告書

自己評価委員会委員長

実施機関から提出された自己評価等報告書について、下記のとおり助言したので、委員会意見を付して報告します。

令和5年3月31日

(対象年度)

対象年度	令和3年度(2021年度)～
------	----------------

(評価対象)

実施機関名	英語英文学科、国際文化学科、食物栄養学科、生活デザイン学科
-------	-------------------------------

(主な助言)

<ul style="list-style-type: none">・カリキュラム・ポリシーを保証する取組みの状況を報告してください。・「岐阜学」を取り入れた専門科目の授業状況を報告してください。・「SDGs」を取り入れた専門科目の授業状況を報告してください。・年度をまたぐ場合や継続している場合は、対象年度以降の状況を報告してください。
--

(自己評価委員会意見)

<ul style="list-style-type: none">・学修ポートフォリオをカリキュラム・ポリシーの保証ツールとして組織的(学位単位、教育プログラム単位等)に活用すること。・学生の主体的な学修の教材として資する「岐阜学」や「SDGs」を体系的に取り入れること。
--

添付資料

- ・自己点検報告書(実施機関作成)

自己評価報告書

(評価対象)

実施機関名	英語英文学科	代表者氏名	学科長
対象年度	令和3年度～	作成者氏名	学科長

(助言等事項)

助言等機関	自己評価委員会	助言等日	令和4年7月20日
-------	---------	------	-----------

① カリキュラム・ポリシーを保証する取組みの状況を報告してください。
 ② 「岐阜学」を取り入れた専門科目の授業状況を報告してください。
 ③ 「SDGs」を取り入れた専門科目の授業状況を報告してください。
 ・年度をまたぐ場合や継続している場合は、対象年度以降の状況を報告してください。

(報告)

<p>① 「学生による授業評価アンケート」調査により、科目担当教員は学生の反応を確認し、シラバスの適否や授業方法など自ら分析を行い、今後の教育内容・方法の改善点についてのレポートを学科長に提出した。学科長はそれらのレポートや、学生の自由記述全般を確認し、教員と個別面談や改善に向けた話し合いを行った。</p> <p>② 「英会話 A I」や「ライティング I」で岐阜の伝統文化、観光地、名産等について、英語で紹介できるように取り組んだ。「リーディング IV」では、観光地としての岐阜をテーマとするインターネット上の英文記事を題材とし、読解を指導した。</p> <p>③ 「イギリス文化論／英米文化論」では、イギリス女性首相の誕生（と辞任）等世界各国のリーダーを取り上げ、女性の社会進出に関わる問題を扱った。また、イランにおけるヒジャブ着用に関わる事件を取り上げ、世界における女性差別の問題を取り上げた。「エクステンシブリーディング」では、水汲みなどの労働や生理用ナプキンがないために学校を休む女子生徒の問題を取り上げ、記事の読解や内容に関する議論を行った。また、「リーディング III」で環境をテーマにした読み物を取り上げ、近年は環境問題＝人権問題として取り上げられる傾向にあるという話題を取り上げた。「インターネット・イングリッシュ」では、Greta Thunberg 氏が国連気候行動サミット 2019 で行ったスピーチを取り上げ、聴解や議論を行った。また温暖化 1.5 度後と 2 度後の世界について調査し、発表してもらった。前述の「エクステンシブリーディング」でも、日本人の生活習慣が東南アジアでの森林伐採や破壊につながるという英文記事や、日本うなぎの絶滅危惧に関する英文記事、海洋のマイクロプラスチックに関する英文記事を読み、読解や議論を行った。「英語圏社会と文化」では、アメリカ合衆国における人種差別、経済格差、貧困問題を扱い、地域の違いについて学生に調査させるなどして、理解を深めた。卒業研究についても、フェアトレード、LGBTQ、ジェンダー、教育格差、言語による経済格差などを取り上げ、それらを研究テーマとする学生の指導を行うとともに、他のゼミ生を交えて成果発表や議論の機会を持った。その他、さまざまな演習科目でペアワークやグループワークを取り入れ、協働による学習や問題解決など、お互いに協力し合う姿勢の確立を目指している。</p>
--

自己評価報告書

(評価対象)

実施機関名	国際文化学科	代表者氏名	学科長
対象年度	令和3年度～	作成者氏名	学科長

(助言等事項)

助言等機関	自己評価委員会	助言等日	令和4年7月20日
-------	---------	------	-----------

① カリキュラム・ポリシーを保証する取組みの状況を報告してください。
 ② 「岐阜学」を取り入れた専門科目の授業状況を報告してください。
 ③ 「SDGs」を取り入れた専門科目の授業状況を報告してください。
 ・年度をまたぐ場合や継続している場合は、対象年度以降の状況を報告してください。

(報告)

<p>① カリキュラム・ポリシーに記載する (1) 日本文化、日本語の理解、能力を高める授業として「日本文化論」「日本語表現法Ⅰ・Ⅱ」、情報科学の理解と技能を高める授業として、R3には「情報科学概論」「認知情報処理」、R4からはそれぞれを改めて「データサイエンス概論(R4～全学科で開講)」「情報・統計処理」など、(2) 英語の能力を高める授業として「カレッジ・イングリッシュⅠ～Ⅳ」、中国語、韓国語の基礎を学ぶ授業として「初級中国語Ⅰ・Ⅱ」「韓国語(入門Ⅰ・Ⅱ)」など、(3) 多様な文化・社会、国際関係に関する理解を深める授業として「比較文化論」「多文化共生論」「国際関係論」など、(4) 自ら課題を見つけて調べ、発表する姿勢を養う授業として「専門演習」「卒業研究」、(5) 実社会への橋渡しとなる授業として「観光論」「ホテル論」などをそれぞれ開講している。</p> <p>② 「民俗学」「中国文化論」「文化人類学」「多文化共生論」で岐阜に関するテーマで1～2回授業を行っている。「情報・統計処理」では岐阜に関するデータの分析を取り入れている。「専門演習」「卒業研究」では岐阜市でのフィールドワークを取り入れているゼミもある。</p> <p>③ SDGsを取り入れた専門科目については、どの科目もSDGsを意識して授業を行っているが、R4からは全学科すべての授業のシラバスに、その授業の内容がSDGsのどの項目と係わるかを示している。国際文化学科の授業では、特に「異文化コミュニケーション」「国際協力論」「国際経済論」でSDGsの多くの項目と係わる内容で授業を行っている。「カレッジ・イングリッシュⅠ・Ⅱ」では、SDGsの各項目をとり上げたテキストを使用している。</p>
--

自己評価報告書

(評価対象)

実施機関名	食物栄養学科	代表者氏名	学科長
対象年度	令和3年度～	作成者氏名	

(助言等事項)

助言等機関	自己評価委員会	助言等日	令和4年7月20日
-------	---------	------	-----------

- ① カリキュラム・ポリシーを保証する取組みの状況を報告してください。
- ② 「岐阜学」を取り入れた専門科目の授業状況を報告してください。
- ③ 「SDGs」を取り入れた専門科目の授業状況を報告してください。
- ・年度をまたぐ場合や継続している場合は、対象年度以降の状況を報告してください。

(報告)

- ① 学科のカリキュラム・ポリシーは、『学生便覧』に明記し、学生へ周知している。また、その教育目標を達成するために、教育課程を「教育教養科目」と「専門教育科目」に分け、栄養士として必要な知識及び技術が体系的に修得できるようにカリキュラム編成を行っている。
- ② ①栄養指導論
「食育基本法及び食育推進基本計画」の単元では、岐阜県食育推進基本計画について学んでいる。また、食育の事例として、「岐阜県令和2年度野菜摂取に関するアンケート結果報告書」、「岐阜県高校生の食生活等実態調査結果」等を参考にした実態把握や、野菜ファースト、ぎふベジ、飛騨美濃伝統野菜など身近な食育活動について触れている。
- ②栄養教育論
ライフステージごとの栄養指導の事例を、岐阜市を中心とした身近な地域での取り組みを紹介している（例として、岐阜市キッズトントン教室やクアオルト健康ウォーキング講座、岐阜県学校栄養士会など）。
- ③公衆栄養学概論
「国民健康栄養調査」の単元では、岐阜県の県民栄養調査結果にも触れる。食生活改善普及員、食事バランスガイド、地域包括ケアシステム、食環境整備などについても、身近な岐阜県の事例を用いて解説している（例：ぎふ食と健康応援店など）。
- ③ ①栄養指導論及び栄養教育論
第4次食育推進基本計画は、第3次までの計画に加えてSDGsの考え方を踏まえた3つの重点項目が作成されたことに触れ、SDGsが掲げる目標と、食育には深い関連があることを事例も含めて解説している。
- ②公衆栄養学概論
公衆栄養活動に関する国際的な栄養政策を学ぶ「諸外国の健康・栄養問題の現状と課題」の単元を中心に、SDGsとは何か、それに関連した栄養問題や国連機関（WHO、UNICEF、WFPなど）での持続可能性を踏まえた公衆栄養活動について具体例を用いて解説している。

自己評価報告書

(評価対象)

実施機関名	生活デザイン学科	代表者氏名	学科長
対象年度	令和3年度～	作成者氏名	

(助言等事項)

助言等機関	自己評価委員会	助言等日	令和4年7月20日
-------	---------	------	-----------

- ① カリキュラム・ポリシーを保証する取組みの状況を報告してください。
- ② 「岐阜学」を取り入れた専門科目の授業状況を報告してください。
- ③ 「SDGs」を取り入れた専門科目の授業状況を報告してください。
・年度をまたぐ場合や継続している場合は、対象年度以降の状況を報告してください。

(報告)

- ① 全学で実施される「学生による授業評価アンケート」調査により、担当教員は学生の授業評価意見を確認し、授業方法などの自己分析を行い、今後の教育内容・方法の改善点についてのレポートを学科長に提出。学科長はそれらのレポートや、学生の自由記述全般を確認した。また、入学時と卒業時に学科独自の意識調査を行い、学科での教育内容や活動などの満足度を確認し、学科の運営方針へのフィードバックを実施している。
- ② 複数の科目で岐阜学に対応する教育内容を準備した。例えば、「地域・環境デザイン論」では岐阜の街中でのフィールドワーク・見学を行い、実際に岐阜の建物を観察から学生間でのディスカッションより低炭素都市のためのまちづくりやユニバーサルデザインの導入について理解を深めた。
- ③ 専門科目のほぼすべての科目で1項目以上の目標を対象としている。生活デザイン分野の学びを行う特性上、「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任、つかう責任」を対象とした学びとしている。また、「グラフィックデザインⅢ」では、SDGs を啓蒙するためのポスターデザインを行うことで、SDGs の内容を分析して訴求性を備えたポスターとして表現する取り組みを行った。